

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立成妙小学校

1 自己評価書

教育目標	地域を愛し、明るく元気で、しっかり考える成妙の子を育てる						
基本方針	地域の歴史と文化を大切に、故郷を誇りに思い、社会の変化に対応できる心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指す。						
本年度重点目標	1 人権・同和教育の推進 2 特別支援教育の充実 3 一人一人を生かす生徒指導 4 健康・安全教育の推進 5 生きる力をはぐくむ教育の推進 6 教師の資質・能力と指導力の向上						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		C
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C C		
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A		
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C		C
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C		
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		
	<p>(成果と課題)                  ○「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識して授業実践した。授業の見直しを持ち、学んだことを振り返ることで児童は主体的に学ぶことができるようになってきた。                  ○授業と連動させて読むべき本を示すことで、読書の質を上げるように努めた。                  ▲一人一人が考えを持ったり、発表したりする力を十分に身に付けさせることができなかった。                  ▲家庭学習について、保護者との共通理解ができておらず、授業と連動するような家庭学習の取組ができなかった。</p> <p>(改善策等)                  児童の思考を揺さぶる発問の研究を進め、「もっと知りたい」「自分ならこうする」と思えるよう授業展開の工夫に努めたい。知識を覚えるだけの学習ではなく、自分の考えの変容を自覚させる活動を重視し、粘り強く思考を深めながら学ぶ楽しさを味わわせていきたい。また、朝の会や帰りの会など、教科以外でも自分の考えを相手に伝える活動を継続し、発表する力を付けさせていきたい。                  家庭学習においては、授業と連動させた家庭学習を定着・発展させるための研修を深めるとともに、学校通信や学級通信などを活用し、家庭への協力を求め、学びを往復させて児童の学びの向上に努めていきたい。</p>						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価		評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		C C C
②		児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B		
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A		
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C A		
③		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C		
④		自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C C		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C C		
<p>(成果と課題)                  ○6年生を中心に仲間づくりの取り組みがなされており、夢をかなえる大作戦も一定の効果が認められる。                  ○子どもや保護者の状況を情報交換しながら、相談やケース会議等を行うことができた。                  ○毎月のアンケートや教育相談を実施し、いじめの未然防止、早期発見に努めた。疑わしいものは管理職と相談し、いじめの認知漏れがないように努めた。                  ▲規範意識を高めるための全体での指導や個々への声掛けを行っているが、十分にできていない。</p> <p>(改善策等)                  規範意識を高めるために、児童に対しては、具体的な動作を掲示物やイラストで示し、望ましい行動の視覚化を図っていく。一方的に押し付けるのではなく、児童が自分たちで規範の必要性を感じる機会を作っていく。また、教職員間の温度差をなくして一貫した指導に努めたい。                  自己肯定感や自己有用感の向上に向け、児童に「失敗しても大丈夫」という安心感を持たせ、挑戦する意欲を高めながら、失敗しても否定されない環境づくりを推進していきたい。</p>							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。) 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	C	C
③	他の教職員のサポート体制の充実 教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○優先順位をつけ、できるだけ集中して業務に取り組んだ。 ○職員室が温かい雰囲気で気兼ねなく相談することができ、協力体制が維持されている。 ▲スクールサポートスタッフの活用が有効にできていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>一人教職員の頑張りに頼るのではなく、全員で役割を分担し、誰もが無理なく動ける現場を目指していきたい。そのために、負担になっている業務をもう一度見直したり、スクールサポートスタッフ等との役割分担を再点検したりしながら、温かく働きやすい職場づくりに努めたい。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、 <b>熟議等の結果を基に</b> 、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	C
			・教師アンケート	C	
			・保護者アンケート	C	
・地域アンケート			C		
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	C		
		・地域アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○教職員が無理のない範囲で学校運営協議会に参加したことで、地域の方や保護者の方の考えを聞くことができた。 ○ホームページでは、学校生活の様子が数多く掲載され、自然体の様子が分かり保護者からも喜ばれている。 ▲地域での活動や地域の方々ともに行う活動について、保護者や児童に意義や効果を伝えられていない。</p> <p>(改善策等)</p> <p>学校運営協議会において、教職員や保護者が必要だと感じていることを熟議の内容に反映させ、協議の結果を実際の教育活動につなげていけるよう努めたい。また、熟議の内容や教育活動の方向性について、通信やホームページ等を活用して保護者や地域の方々へ伝えていきたい。 相談しやすい体制・雰囲気を作るために、受容的・共感的な聞き方を習得したり、保護者の不安や不満に対して誠実に対応できる対応力を高めたりするような研修の機会を設けたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満